

立命館経済学 第十六卷総目次 (昭和四十二年度)

論 説

戦後炭鉱労働運動の展開過程 (1)	戸木田嘉久	一	一〇	四五(四五)
A・スミス、D・リカアドオ、J・S・ミルにおける 租税理論の展開 (V)	箕浦格良	一	四六	六五(六五)
——古典学派における財政思想(4)——	小牧聖徳	二	一三三	四〇(三七)
金融資本における信用と国家	小野一郎	二	四一(七三)	七三(一〇五)
社会主義的分配関係の本質について (一)	長谷部文雄	三	四	二五(三二)
『資本論』初版以後とその各国における普及状況	相沢秀一	三	四	四八(四四)
『資本論』の周辺	小椋広勝	三	四	七七(七七)
現代の恐慌とマルクス恐慌論	岡崎栄松	三	四	一一二(四一七)
初期マルクスの経済理論について	小野進	三	四	一一三(四一〇)
——『経済学』哲学手稿』を中心として——				
帝国主義論	小野進	三	四	一一三(四一〇)
——シュンペーターとレーニン——				
過渡期における国家資本主義の諸形態	手島正毅	五	六	四四(五三)
日本の近代化過程における貿易構造の変化	清水貞俊	五	六	五九(五九)
ルール石炭鉱業の展開とプロイセン鉱業法 (一)	川本和良	五	六	一一八(六〇)

戦後炭鉱労働運動の展開過程(2)……………戸木田嘉久 五・六……一九(六〇九)——一五(六四六)

研究ノート

法学と経済学との中間領域にある若干の問題(その一)……………梯 明 秀 三・四……一五(四三二)——一五(四四五)

——藤田勇氏の論文「法と経済との一般理論」についての部分的紹介とそれについての備忘録として——

資料

商業都市の市民所得……………建林 正喜 一……六(六〇)——一〇(一〇一)

フレット・エルスナー「独占価格と独占利潤」……………桜井富雄・吉田伸雄 二……七(一〇〇)——一〇(一三九)

キム・スンジュン「農地改革」後の南朝鮮農業政策……………一井 昭他三名共訳 二……一〇(一四〇)——一四(一七三)

——「南朝鮮における『農地改革』」(続)——

略耕 漢『資本論』第一章第四節の要点と疑問についての試論……………松野昭二訳 三・四……一五(四四五)——一八(四七六)

——(『経済研究』誌一九六三年第五期)——

自由民権期の府県会闘争(一)……………後藤 靖 五・六……一七(六四七)——二二(七〇二)

書評

——参事院裁定書——

内田義彦『資本論の世界』……………岡崎 栄 松 一……一〇(一〇二)——一六(一六六)

今堀誠二著『毛沢東研究序説』……………松野 昭 二 二……一四(一七四)——一五(一八七)

手島正毅教授著『日本国家独占資本主義論』……………豊崎 稔 三・四……一八(四七七)——一九(四九九)

後藤 靖著『土族反乱の研究』……………遠山茂樹 五六…三三(〇〇)——三九(〇七)

学界動向

第十四回都市学会……………建林正喜 一…一七(一七)——一九(一九)

第七回社会主義経済学会……………芦田文夫 五六…三〇(七〇)——三三(七二)

社会政策学会第三六回大会……………戸木田嘉久 五六…三四(七二)——三七(七五)

経済理論学会第一五回大会……………小野進 五六…三六(七六)——三九(七九)

経済学史学会第三二回大会……………細見英 五六…三三(七九)——三六(八〇)

共同研究室

昭和四一年度第六回研究会「計画法論の最近の動向」……………芦田文夫 一…一九(一九)——二五(三五)

” 第七回研究会「マルクスとヘーゲル」……………細見英 一…三五(三五)——三八(三八)

” 第八回研究会「ソ連邦における賃金改革と新報奨制度——賃金格差と物質的関心を中心に——」……………小野一郎 一…三六(三八)——三九(三九)

昭和四一年度第九回研究会「物的関係の背後の人的関係における法のおよび経済的な両規定の二重性について」……………梯明秀 二…一五(六八)——一八(六八)

——交換過程および労働市場に限定して——

昭和四二年度第三回研究会「戦後の所得分布の変動」……………関弥三郎 二…一五(六八)——一八(六八)

” 第五回研究会「戦後西ドイツの農業と農政」……………大藪輝雄 二…一六(六九)——一九(六九)

本年度会員業績…………… 五六…三三(七一)——三六(七三)